

JEITA/ECALGA 標準 2012 年度版の主な変更点

JEITA/ECALGA 標準 2012 年度版の主な変更点は以下の通りである。

- (1) エンジニアリングチェーンでは、従来からの企業間コラボレイティブモデルをすべて廃止とし、これらのモデルを全て包含できる「技術情報交換モデル」を新たに策定した。
- (2) 「技術情報交換モデル」は、サプライチェーンと同様にユーザ間でのB P S S制御を使用しないことを前提とし、XMLタイプに加えてC I Iタイプを利用したデータ交換を可能とした。
- (3) サプライチェーンでは、ユーザ間でのB P S S制御を前提にした「Ⅷ 企業間制御型プロセスモデル（先端モデル）」を、当モデルのユーザ利用状況と企業内システムの現状を踏まえて廃止とすることにした。
- (4) XMLタイプの辞書では、C I Iタイプとの互換性を保つために情報区分コードの項目を追加した。また、ユーザ間でのB P S S制御は未使用とするが、A S P－A S P間での利用を想定し、XMLタイプのヘッダー項目であるC B C－I D、B C－I D、B T－I D、B A－I Dを必須項目から任意項目へ変更した。なお、B D－I Dは情報種を特定するために必須のままである。
- (5) 技術編については、C I I技術仕様の利用拡大とB P S S制御利用範囲縮小の観点から記載内容を改訂した。
- (6) サプライチェーンを中心に用語の統一、書式の統一による見易さの向上を図った。

発行	分冊	編数	編 名	記述概略
2012 年度版 発行	1	I	解説編	標準の位置付け、概要、変更点
	1	II	技術編	システム、ネットワーク
	1	III	資料編	移行ガイド、全銀協メッセージフォーマット、TPA一覧
	2	IV	業務モデル編（E C M）	技術情報交換ビジネスモデル集
	2	V	ビジネス辞書編（E C M）	ビジネスドキュメント（C I Iタイプ、XMLタイプ）、項目定義、コード定義等
	3	VI	国内業務モデル編（S C M）	国内における商取引情報交換ビジネスモデル集
	4	VII	国内ビジネス辞書編（S C M）	国内における商取引交換ビジネスドキュメント集 ビジネスドキュメント（C I Iタイプ、帳票・ラベル、XMLタイプ）、項目定義、コード定義等
	5	VIII	海外業務モデル編（S C M）	海外における商取引情報交換ビジネスモデル集
	5	IX	海外ビジネス辞書編（S C M）	海外における商取引交換ビジネスドキュメント集 ビジネスドキュメント（C I Iタイプ、帳票・ラベル、XMLタイプ）、項目定義、コード定義等